

一般社団法人 日本物理学会
第 72 期物理学史資料委員会（2016 年 4 月～2017 年 3 月）活動報告

委員長：永平幸雄

副委員長：岡本拓司

委員：高須昌子（担当理事）、赤羽明、有賀暢迪、岡本祐幸、小林典男、並木雅俊、
難波忠清、廣政直彦、小長谷大介、高岩義信

1. 物理学史資料委員会の開催

下記のとおり、2 回の委員会会議を行った。

第 99 回物理学史資料委員会

日時：2016 年 6 月 25 日（土）13:30～16:40 場所：日本物理学会 大会議室

第 100 回物理学史資料委員会

日時：2016 年 12 月 17 日（土）13:30～15:00 場所：日本物理学会 会議室

今期の開催回数が少なかった原因の一部は、通常、年度末の 3 月に開催していた資料委員会を資料委員の任期（年度）に合わせて 4 月開催に変更したためである。

2. グループ化による諸課題の検討・実施体制の構築

委員を以下の 6 つのグループ（◎印の委員はチーフ）に分けて各課題を検討・実施していくことを決め、第 100 回委員会で報告を受けて審議した。

- ① 資料委員会保有資料の取り扱い
◎並木、赤羽、高岩、
- ② 資料保存状態の監視及び長期保管・管理方法の検討
◎並木、事務局
- ③ 『会報』掲載資料及び資料保存機関の情報の随時アップデートとオンライン化の検討
◎岡本(拓)、小林、岡本(祐)、有賀
- ④ 資料委員会のホームページの充実
◎廣政、高岩
- ⑤ 学会開催時のシンポ・展示等の企画検討
◎小長谷、有賀
- ⑥ 「年表（第二版）」の定期的アップデート手順の検討
◎難波

3. 資料委員会資料（4F 書庫）の保存・整理

前年度に成田倉庫からの移動作業は完了した。今年度は箱や袋に入った資料のリスト化を進めた。また 2017 年予算で雑誌（70 冊）の製本化、長期保存用封筒への詰め替え、資料のクリーニングを進めた。とくにカビ除去・防止対策に気を配った。

4. 物理学史資料に関する情報

資料委員会会議時に各地の物理学史資料情報の収集を行った。今期から、可能な限り文書による報告を行うことにした。以下は今期に報告された資料情報のリストアップである。

東北大学金属材料研究所：100 周年記念式典；資料展示室と本多記念室のリニューアルオープン
KEK 資料室：自然科学系アーカイブズ研究会の 8 月、12 月開催

核融合科学研究所：山本賢三氏の資料の整理開始；オーラルヒストリー（川上一郎氏）活動

京都大学湯川記念史料室：資料整理の進行

新潟大学所蔵の歴史的実験機器：保存状況

北海道大学・大学文書館の堀健夫資料：保存と開示状況

国立科学博物館：長岡半太郎資料、東京女子高等師範学校からの教育用実験機器資料

理化学研究所（記念史料室）：宇宙線実験室関連；ヒアリング；理研 100 周年たけ記念

米国スミソニアン協会：日本製の物理教育器械；国立航空宇宙博物館の光電子倍增管

名古屋大学坂田記念史料室：武谷三男資料の管理；F資料のテレビ取材

5. 2016年秋季大会（金沢大学）での歴史的実験機器でのシンポと展示会

領域13代表、物理学史分科会運営委員、物理教育分科会運営委員と協力して、2016年9月15日に「歴史的物理実験機器と物理教育」と題するシンポジウムを物理学史、物理教育分科会の合同シンポとして開催した。発表者は7名、参加者は約40名であった。シンポの報告は『大学の物理教育』2017年3月号に掲載された。

並行して、13～16日に金沢大学資料館にて約20点の機器及び当時の機器商品目録を展示する展示会が開催された。16日には石川県立自然史資料館にて収蔵庫内の見学と説明会が開催された。参加者は10名であった。

6. 学会史年表作成・関連

学会史年表の『物理学会誌』掲載に協力した。年表中の「土星型長岡原子模型」に関する会員からの問い合わせに対する資料委員会の意見を編集委員会に提出した。